

83 1年生医学特別講演 「医療従事者に求められるものはなにか」

- (1) 目 標
 - ア 医学の最近の動向を知る
 - イ 医療従事者の職業生活の実態を知る
 - ウ 医療従事者に求められるものはなにかを考える
 - エ 職業について学習し、進路選択に役立てる

- (2) 実施要項

- ア 期 日 平成18年12月15日(金)
- イ 実施場所 アイプラザ一宮(一宮勤労福祉会館)
- ウ 対 象 普通科1年生(319名)
- エ 講 師 二村雄次 名古屋大学医学部教授
- オ 演 題 「医療従事者に求められるものはなにか」

がんの診療に関する最近の動向および医療ミスを起こさないシステムの構築や病院の経営管理など医療の現状、さらに職業としての医療従事者の生活などを多角的に検討した上で、医療従事者に求められるものから心構えにいたるまで講演していただいた。医療の現状を把握するとともに、医療系志望者にとっては医療従事者としての自己の適性を考え、他の生徒にとっても卒業後の進路や職業選択について考えることができる内容であった。

- (3) 実施内容

- ア 大学との連携

医療の現状および医療従事者の職業生活の実態について知識を深めた上で、医療従事者に求められるものについて(さらに高校生活や職業選択をどのように捉えたらよいかについてまで)考えを深めたいという主旨で講演を依頼した。

- イ 事前指導

講演への興味関心を高め基本的な知識を持たせるため、「講演会に向けての事前学習～がん(悪性腫瘍)についての予備知識～」という事前学習を行った。がんの原因、がん化のしくみ、発がん物質、がんの種類、がんと生活習慣、老化とがん、望ましいがんなどについて基本的知識を学んだ。

- ウ 講義内容

演題「医療従事者に求められるものはなにか」

- (ア) はじめに

自分の専門と一週間の日課について。専門は消化器がん(その中でも最も難しい肝臓・胆のう・胆管・すい臓のがん)の手術による治療。一週間の日課の一例は次のとおり。月：午前中から昼過ぎまで外来診察、病棟回診、夕方から24時頃まで症例検討会。火：手術(朝から夜の9時までかかることもある)。水：午前中から昼過ぎまで外来診察(または手術)。午後は病院の運営に関する会議。木：手術、夕方から24時頃まで症例検討会の続き。金：午前は実習学生と回診、午後は学会や講演など出張。土：手術後の患者さんの経過観察、大学の柔道部の指導、手術後の患者さんの経過観察、研究データ整理。日：手術後の患者さんの経過観察、やり残しの仕事。この他に、資料整理、対外的対応、学会発表準備、学生の指導、講義などがある。勤務医は基本的に仕事がハード。

- (イ) がんについて

現在の日本では、肺がんが多く、乳がんも増えている。昔は胃がんが多かったが今は大腸がんが増えている。乳がん・大腸がん・胃がんは70～80%治るようになってきた。今でも肝臓・胆のう・胆管・すい臓のがんは治りにくい。

- (ウ) 大学病院について

大学病院には、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、臨床心理士、臨床工学技師などの理系的な人以外に、医療事務、受付、会計、保険に関する事務、医療事故防止に関する事務、治験に関する事務、研修に関する事務などに関わる文系的な仕事をしている人も多い。

また、新しくできた薬の効果を試す仕事、国立大学が法人化されたこととともない経営を改善するための仕事もできた。

(I) 医療従事者に求められるもの

医療従事者に最も必要なことは博愛の精神をもって弱い人を助けるといふ気持ちであるが、そのためには(り)で挙げた多種の医療従事者間でコミュニケーションをとる能力が必要である。もちろん、患者さんとの協調も大切である。

高校生活に関して、できれば運動部で厳しい体験をしてほしい。これが対人関係のトレーニングになり、医療従事者となったとき患者さんの気持ちや医療チームのメンバーの気持ちがわかようになる。また、医師になってからも、なるべく苦勞の多い厳しい条件のところで研修することを勧める。そうすると精神的にも成長できる。



講演風景

(4) アンケートの実施

ア 事前学習について

事前学習は、資料を読み設問に答える形で実施したが、この内容について、「理解できた」と答えたものが30%、「どちらかといえば理解できた」と答えたものが51%で、合わせて81%のものがある程度理解した上で、講演に臨むことができた。プリントの内容について自分自身で考えさせるという方式が、興味関心を喚起する上で効果的であったものと考えられる。

イ 講演について

「講演の内容は理解できましたか」という質問に「理解できた」と答えたものが33%、「どちらかといえば理解できた」と答えたものが52%で、合わせて85%の者がおおむね理解できたとしている。これは、普通は聞くことのできない医療の実態を医師の視点から聞くことができ興味を持ちやすかったこと、数学や物理や生物の知識を前提としたものではなかったこと、分りやすい語り口であったことが理由として考えられる。

「講演は面白かったですか」という質問に、「面白かった」と答えたものが22%、「どちらかといえば面白かった」と答えたものが47%で、合わせて69%のものが興味を持って聞くことができたとしている。一方で約30%が「どちらかといえば面白くなかった」「面白くなかった」と答えているが、これは、自由記述欄の意見からみて、今回のようなテーマではなく、先端治療技術そのものについて具体的に知りたかったという者が少なくなかったためであると思われる。また、写真・図・グラフなど視覚的な方法による説明を望む意見も見られた。

感想や意見としては、「医療従事者の仕事の様子・多忙さが分かった」「医療従事者には協調性が必要であることが分かった」「厳しい体験をすることは大切だ」「部活動を大切にしたい」「有意義だった」など、講演内容を踏まえた肯定的なものが多かった。